国交労組

より多くのなかまを職場で迎えよう

2019年９月20日号
第177号
毎月２回５日・20日発行

発行所
東京都千代田区霞ヶ関２の１の３　国土交通労働組合
電話(03)3580-4244　ＦＡＸ(03)3593-0359
ＵＲＬ：http://kokkoroso.or.jp
発行者：安藤　高弘
１部20円（組合員の購読料は組合費に含む）

2019年９月20日　国交労組　第177号（通巻1333号）　昭和37年12月３日　第三種郵便物認可

We are Kokkoroso！

対話からとりくみをはじめ、19年度も楽しく労働運動をすすめよう

第９回定期大会
９月８～９日 滋賀県大津市

運動の発展に確信を持ち、なかまとともにとりくもう

国土交通労組は9月8～9日、滋賀県大津市において第9回定期大会を開催し、代議員130人をはじめ、総勢192人が参加しました。大会では、多忙をきわめる職場の実態や労働環境・生活環境改善のとりくみ、日常活動・組織拡大の教訓や課題について、2日間にわたり熱い議論が交わされ、2019年度の方針を決定しました。

国土交通労働組合
安藤中央執行委員長

安藤中央執行委員長あいさつ（要旨）

国民の安全・安心を守る国土交通行政への転換をもとめる運動をすすめてきた。

現時点では請願採択を得るところまではいかないが、紹介議員も年々増えている。また、今年の参議院国土交通委員会では日本共産党選出委員から「国土交通行政の重要性や国民からの期待が高まっているもとで例年のように審議未了は如何なものか」との指摘があり、自民党選出委員も追随し、国土交通大臣からは行政体制の充実の必要性が答弁されるなど、採択にむけて『あと一歩』という状況となっている。

今回の運動方針案では、これまでの「気事拡署名」と「体制拡充署名」を統合し、より運動の集中化をはかることを提案するが、これは気象庁の要員予算・組織などの体制拡充部分を統合するものでり、基本的な気事拡運動をやめるものではない。

気象事業は国民生活に欠かすことのできない重要な事項である。そうであるならば、一つの重要な産業として整理し、生公連や交運共闘のように、ともにたたかう民間のなかまとの共同の運動として発展させていく必要がある。

例えば、全国災害対策連絡会議（災対連）に国土交通労組は直接加盟していることから、そのような民間組織との共闘で気事拡運動を単組運動から産業別運動に発展していくことが重要だろう。

いま、職場では連年の定員合理化計画によって、きわめて深刻な働き方になっている。それを何とかして欲しい、というのがすべての職場、全職員の共通の声だ。

我が事なのに、当事者自ら署名をしない、「声を上げない」のでは、私たちを支援する人は増えないだろう。

是非とも、新たな体制拡充署名、生公連署名、交運共闘署名においては職場のすべての職員、家族の皆さんから署名の集約ができるようにとりくんで頂くよう強くお願いする。

体制拡充への期待と発展

国土交通労組が2011年に発足して、この大会で丸8年が経過した。この間の運動はどうであったかを概括すれば、国土交通労組となって大きく前進した部分がある一方で、後退した部分もあることは否めない。

前進した部分は、大同団結の大きな力で、「建設産業の再生を求める生公連署名」、「気象事業整備拡充（気事拡）署名」、「海洋環境体制拡充署名」そして、現在は「国土交通行政の機構拡充・職員の確保を求める国会請願署名」いわゆる「三大署名」のとりくみを軸に、やはり、加入対象者に近い世代や業務のつながりのなかで、先輩・後輩、同僚という身近な人からアプローチをしていく必要があると考えている。

「なかまを増やすなかま」をつくる

残念ながら後退した部分として、組織統一を行ってから、国土交通労組の組合員数は大きく減少している。

組合員数が激減する状態は、運動を支える財政基盤が揺らぐことに他ならず、必然的に運動の縮小化につながり、そうなれば、組合に対する期待感も薄れ、ますます組織離れに拍車がかかるものとなるだろう。

「組合って何しているのですか」、「組合に入らなくちゃダメなんですか」そういった新人からの質問に、「組合は、遊んで、学べるし、楽しいところだよ」、「仕事で悩んだり、不満があれば文句もいえるし」と青年の想いから、単純明快に同じ世代が気軽に語りあえば、しっかりつうじるはず。

また、役員経験者の上司であれば、仕事の合間に、「組合に入った方？　組合に入れば、友だちもできるし、長く仕事をしていくうえでは、困ったときに助けてくれるのは、なかまだよ」など、諭すことができるだろう。

これが「なかまを増やすなかま」をつくるということになる。若い人たちが元気にがんばっている姿を見れば、労働組合っていいなとあらためて感じると思うし、若い世代がこれから安心して長く働き、暮らせる社会をつくろうと気持ちも新たになるだろう。

なかまを増やすなかまをつくることができれば、おのずと役員のなり手がいないという課題も解消されていく。なかまを増やす努力をする人が、役員の順番が回ってきたら組合を辞めるということはあり得ないと思う。

これからすすめる組織拡大運動は、なかまを増やすなかまを如何に多くつくることができるかが重要なポイントになろうかと思う。

国土交通労働組合が結成10年を増勢で迎えるためにも、労働運動は本当は楽しいものなんだと広め、みんなで楽しい労働運動をすすめていこう。

そうすれば、たくさんのなかまが国土交通労働組合に結集してくれるはず。

最後に全国のなかまに呼びかけたい。

「We are Kokkoroso!」

本大会が新たな時代へさらなる一歩を踏み出し、楽しい労働運動をすすめることを意志統一する大会になることをお願いする。

ともにがんばっていこう。

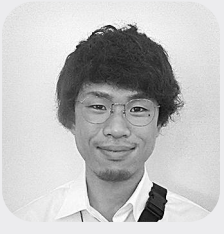
定期大会デビュー　part①
定期大会に参加した、感想をお願いします！

中国港湾空港支部
浜本 尚拓さん

リクルートの時には、良い部分ばかりが見えていたが、定期大会をつうじて国土交通省の「影」の部分がよくわかりました。すでに職場でもリクルートの際にいわれていたこととの「違い」を薄々感じはじめていましたが、今回あらためて、より実状が明らかになり、驚きました。

ひどい面があるからこそ、加入者・未加入者ともに、しっかりと危機的な意識を持つべきだと感じました

色々な人に出会い、色々な経験をしたいので、11月の青年交流集会をはじめ、労組のとりくみに積極的に参加していきたいです。



中部運輸支部
鈴木 康太さん

自分の所属する部門の話だとわかる部分もあったが、情勢や他部門のことなどは、馴染みがなく難しい部分がありましたが、国土交通労組が一丸となってとりくまなければ解決できない問題が多々あるんだと感じました。

自分の知らないことが、まだまだたくさんあるので、いろんなことを知り、このような場を、より有意義に過ごせるようにしていきたいです。

九州建設支部
坂下 匠彦さん

労働組合がどういった視点でとりくみをしているのかがわかりました。

自分の職場に関係するような事項は想像がつきますが、馴染みがないと全く想像がつきませんでした。特に、抽象的な発言や回答は難しかったです。

交流することが好きなので、また参加をして「なかま」を増やしていきたいと思います。